

わが道を拓く（第1回）

自らの志で道を拓いたプロフェッショナルから、自身の生き方を創るヒントを見つける講演シリーズ

いつだって「読む」から始まった — 私が「書く人」になるまで



梯 久美子 (ノンフィクション作家)

(かけはし くみこ) 1961 (昭和 36) 年 9 月 15 日、熊本市生まれ。北海道大学文学部卒業後、編集者を経て文筆業に。2005 年のデビュー作『散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道』で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。同書は米、英、仏、伊など世界 8 か国で翻訳出版されている。著書に『昭和二十年夏、僕は兵士だった』、『昭和の遺書 55 人の魂の記録』、『百年の手紙 日本人が遺したことば』、『狂うひと「死の棘」の妻・島尾ミホ』(読売文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞、講談社ノンフィクション賞受賞)、『原民喜死と愛と孤独の肖像』、『サガレン 横太／サハリン 境界を旅する』、『この父ありて 娘たちの歳月』、『戦争ミュージアム——記憶の回路をつなぐ』、『やなせたかしの生涯 アンパンマンとぼく』、『昭和の遺書』などがある。

今から 20 年前、私は 43 歳でノンフィクション作家としてデビューしました。私の書くものは、いつも「読む」ことから始まっています。言葉に出会い、そこから人に出会う。中学生のとき詩集「愛する歌」を読んで心をひかれ、大学卒業後にその下で働くことになった、やなせたかしとの出会いもそうでした。

「読者」を「著者」にするものは何なのか——「読む」と「書く」の距離について、私の経験からお話ししようと思います。

日時 令和8年 1月29日(木)19:00~20:30 (18:30 開場)

会場 日比谷図書文化館 地下 1 階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

参加費 500 円(千代田区民及び学生無料。当日は千代田区民の方は住所が確認できるもの、
学生の方は学生証をお持ちください。)

定員 200 名(事前申込順、定員に達し次第締切)

主催 公益財団法人上廣倫理財団

共催 千代田区立日比谷図書文化館

【お申し込み方法】**「お申し込み開始日12月11日(木)10:00 より」**
イベント予約サイト「Peatix」、電話(03-3502-3340)、ご来館(1階受付)、いずれかにてお申し込みください。電話、ご来館の場合は下記の情報をご連絡ください。①講座名、②お名前(よみがな)、③電話番号

※小学生以下の子様が参加される場合、保護者の同伴が必要です。同伴の方にも参加費が必要です。

Peatix
お申し込み
QR コード



都営地下鉄 ● 三田線「内幸町駅」A7出口／徒歩3分
東京メトロ
● 丸の内線 ● 日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口／徒歩3分
● 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口／徒歩3分
JR「新橋駅」日比谷口(SL広場)徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。